教育センター通信

ほど
火床の火の心を紡ぐ

第１１号（通算９４号）
令和４年３月１７日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性

小中一貫教育推進課　指導主事　今井　由実子

標題は、令和３年１月に中央教育審議会から出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の中で、新時代の特別支援教育の在り方について示された項目の一つです。インクルーシブ教育システムの理念の構築と特別支援教育の進展などについて提言されています。同時期に公開された「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」の報告書でも、特別支援教育の専門性について、「全ての教師が」と記載されています。

「インクルーシブ教育システム」「基礎的環境整備」「合理的配慮」「ユニバーサルデザイン」などの言葉が広がる以前から、既に実践されてきたこともたくさんあります。随分前の話ですが、ある中学校で、教室環境や授業をとても工夫しているベテランの先生がいらっしゃいました。授業の目的、活動内容、時間などを明示し、ICT 機器や具体物の教材を駆使して分かりやすく授業づくりをしていました。学級のルール、生徒の机の配置や指導者の位置、言葉掛けまで細やかに配慮され、どの子にとっても学びやすく、居心地がよい教室に見えました。その先生が、「前の学校ではここまでしなかったけれど、今の学級の子たちは、このほうが分かりやすいかと思って。」と笑顔でおっしゃっていたのがとても印象的でした。

ユニバーサルデザインは、正解も万能さもあるわけではありません。目の前の子どもにとって、何が理解しやすいか、活動しやすいかの視点が大切です。そして、子どもたちの表情や言動が、それを教えてくれます。いろいろな言動で、「分からない」「できない」「不安だ」のサインを出している子は、とても大切な存在です。その子の姿を思い浮かべながら、どうやって理解や活動参加を促し、安心して過ごせる学びの場を確保するかを考えることは、教員としての力量を高め、指導力を磨く最大のチャンスです。

今年度も残りわずかとなりました。冷たい風雪に耐えて蓄えた力が芽吹くように、子どもたちが大きく成長した姿が確認できる時期かもしれません。４月には、新しい出会いも待っています。子どもたちの姿から学び、成長し続ける教員でありたいと思います。

令和３年度授業力向上実践研修を振り返って

三条市教育センター主催の研修講座「令和３年度授業力向上実践研修」では、教職経験年数２年目から５年目の教員を対象とした Step１研修を 35 人が、７年目から 10 年目の教員を対象とした Step２研修を 10 人が修了しました。

年間の研修を新型ウイルス感染症対策のため、Step１、Step２ともに５月のガイダンスと第２回学習会を紙面研修とし、第１回（６月）、第３回（８月）、第４回（11 月）の学習会をオンライン研修で行いました。全体での学習会は２回、個別の学習会は例年通りの２回と限られた回数で行う中での研修でも、受講者一人一人に指導主事が付く形で、受講者自身が選んだ教科等で研究授業を行い、Step１受講者は授業づくり実践記録を、Step２受講者は教育研究論文を執筆しました。

この受講生の研修の成果である「授業づくり実践集」（Step１）と「教育研究論文集」（Step２）は、一昨年度までの印刷物での冊子配付から、昨年度から校務用共有フォルダの教育センターのフォルダに、PDF 原稿を上掲する形に変更しました。今年度分も上掲してありますので、ぜひ御覧ください。

研修の終わりに当たって、「まとめのアンケート」を２月に実施しました。日々の業務を進めながらの研修は、時に苦しいこともあったかと思います。しかし、受講者自身の頑張りと各学校で受講者を支えてくださった学校体制との両輪があって、下記の表の数値につながったと確信しています。受講者の皆様の頑張りに拍手を送ります。そして、各学校で受講者を支えてくださった皆様に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

＜まとめアンケートから＞

※表中の数値は、回答者の割合（%）	この研修に参加して自己の授業力向上に役立ったと思いますか。			
	大いに役立った	やや役立った	あまり役立たなかった	ほとんど役立たなかった
Step１研修： 35 人修了	**77.1**	**22.9**	**0**	**0**
Step2 研修： １０人修了	**80**	**20**	**0**	**0**

以下に、Step１、Step２からそれぞれ受講生のアンケートのコメントの一部を紹介します。

Step１受講者	Step２受講者
校内で研究授業に向けて相談にのってもらい、指導案から実践記録の執筆まで支えてもらいました。授業の計画、実践、評価、改善と計画的に進められました。	同じ教科を選択した他校の先生と連絡を取り、授業について相談したり、互いの研究授業を参観したりすることができました。とても勉強になりました。
新型ウイルス感染症対策のため、他校の受講者の授業を参観することも、自分の授業を参観してもらうこともできませんでした。感染症を気にせずに授業を参観し合えるように早くなってほしいです。	教育研究論文を書いた経験がなかったので、４月に受講申込みをした時は、やり遂げられるか不安でした。学習会や研究授業を通して、論文を仕上げることができ自信につながりました。

来年度も「授業力向上実践研修」を実施しますので、対象の経験年数の教員の皆様からの積極的な受講申込みをお願いします。

さんじょう学びのマルシェ

「さんじょう学びのマルシェ」も、今年で８年目に入りました。「学びのマルシェ」とは、「もっと学びたい」と希望する子どもたちが、自分に適した教室を選び、学力を高める取組です。これまで、たくさんの子どもたちが笑顔になってきました。

今年度からは、従来からあるプラスワン教室、ステップアップ教室に加えて、ジャンプアップ教室を第一中学校・嵐南小学校会場及び一ノ木戸小学校会場に新設しました。教室では、学校での学習内容を十分に理解し、やや発展的な内容の学習を希望する児童生徒に向けて、少し高度な内容の学習を展開しました。受講生からは、「ジャンプアップの問題は難しいけれど、みんなと相談し合ってできた時の爽快感は、倍以上です。（小６）」「応用や活用問題の解き方など、分からない所を教えてもらうことで理解を深めることができました。（中３）」等の学校での学習では得ることのできない喜びの声が多く聞かれました。

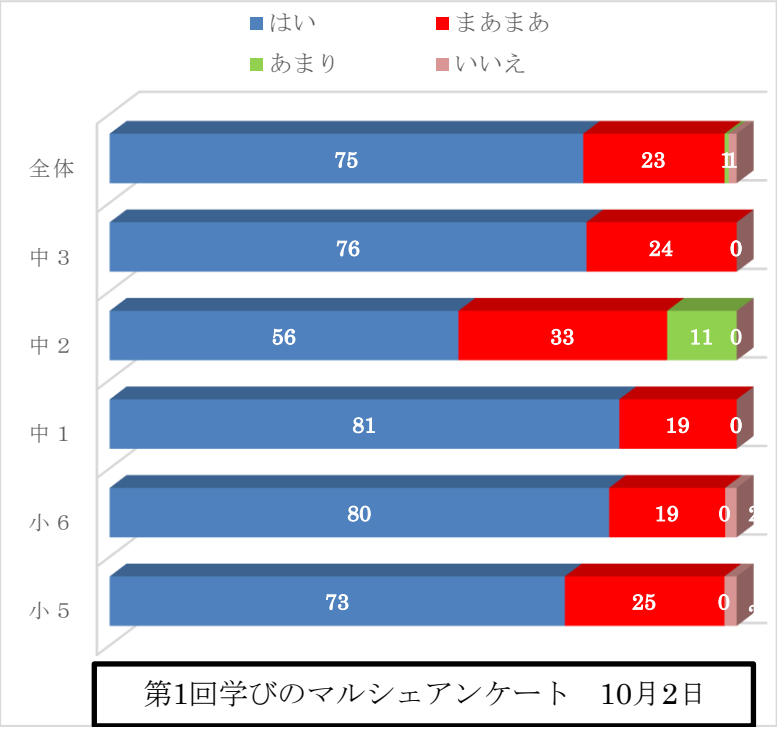
さて、近年の受講生の特長として、次のアンケート結果のように、学習理解度の高まりが感じられます。

問３　以前よりも学習内容がわかるようになったと思いますか。

学習理解度は、ここ数年 70％前後の数値でしたが、今年度、75%に上昇しました。中１、小６では、80%を超えています。

受講している児童生徒からは、「解けなかった問題も優しく教えてくれた。学校の授業もちょっとずつ分かってきて、楽しかった。（小５）」「学校でも進んで学習できている。先生の教え方が分かりやすい。（小６）」「前よりも学校の授業の内容がよく分かるようになった。（中２）」「テストの点数が 20 点くらいも伸びて、うれしかった。（中３）」など、マルシェに参加するようになって、学習理解が進んだことを示す声がたくさんあります。

今後も、受講生の「できる、分かる」に寄り添い、学習に対して自信をもてるように指導を進めていきます。学校においても、参加している児童生徒への励ましや賞賛をしていただけると幸いです。



第1回学びのマルシェアンケート　10月2日

※今年度の「さんじょう学びのマルシェ」は、まん延防止等重点措置の適応により、１月 22 日（土）以降は、中止としました。

「三条市授業スタンダード」改訂増補の要点

三条市教育委員会では「授業スタンダード」を考え、子どもを大切にした授業づくりのためのガイドブックとして令和２年３月に初版を発行しました。主たる目的は、「三条市授業スタンダード」のテキストを参照・活用することを通して、学習指導要領に示されている目標と照らして、主体的・対話的で深い学びを具現した授業を展開できるようにするためです。

これまで市内教職員との対話を基に改訂し、授業スタンダードに基づいた実践が定着してきました。

今月に第３版を発行します。授業づくりの５つのポイント（**スタート・ラーニング、学習問題◎、対話、まとめ、振り返り**）は大きく変わりませんが、改訂増補しているので、各学校で「三条市授業スタンダード」が印刷・配布されましたら、新たな気持ちで読み進め、新年度の授業づくりに臨まれることを期待します。

内容	改訂増補の要点
０「授業スタンダード」の目的と活用の仕方	
Ⅰ　ポイント1「スタート・ラーニング」	
Ⅱ　ポイント2「学習問題◎」	読解力育成の観点から、学習指導で必要なこと、大切にしたいことを補足しました。
Ⅲ　ポイント3「対話」(特に解決活動)	
Ⅳ　ポイント4「まとめ」	
Ⅴ　ポイント5「振り返り」	
【資料1】「授業スタンダード」Q＆A	問題解決型の授業について考える内容を加えました。
Ⅵ「授業スタンダード」に基づいた実践状況の評価	
Ⅶ　授業を考える **1　ICT を活用した授業づくりの例** **2　重点教科：算数・数学　授業づくりの視点**	授業づくりのポイントを踏まえ、ICT の活用アイデアを例示しました。一ノ木戸小学校、井栗小学校、大面小学校、大浦小学校、大崎学園の事例があります。 算数・数学の発展的思考を促す授業例や教材を構成する方法を示しました。
Ⅷ　家庭学習を考える 1　小学校(前期課程)において特に大切にしたいこと 2　中学校(後期課程)において特に大切にしたいこと	「家庭との連携・保護者の協力」「読書」「対話」「メディアの適切利用・自己管理」の重要性に言及しました。
【資料2】「学習問題◎」のつくり方の具体例 ⑴　不確かな状況から生まれる問題意識 ➢　**防災教育の例** ⑵　自分の考えと合わない事実・事象との出合いから生まれる問題意識 ➢　**中学校　社会の例** ⑶　複数の方法等から選択するときに生まれる問題意識 ➢　**小学校　家庭科の例** ⑷　よいモデルとの出合いから生まれる問題意識(願い) ➢　**中学校　技術分野の例** ⑸　意義や目標を共有したときに生まれる問題意識(願い) ➢　**小学校　音楽の例** 【資料3】「学習問題◎」を中核とした本時の授業構想 ➢　中学校　英語の例 ➢　ワークシート	これまで例示しなかった教科等を示しました。原稿執筆の際、嵐南小学校、一ノ木戸小学校、大島中学校の教職員に協力していただきました。初版や第２版の事例と合わせて読むと、学習問題◎のつくり方のイメージが膨らむかと思います。 ※初版の例示…【小学校】算数、図工、体育、外国語、【中学校】国語、理科、道徳 ※第２版の例示…【小学校】国語、社会、理科、道徳、生活、【中学校】数学、英語